

2025年度第1回 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議部会 議事要旨

報告 2024年度神戸市の「にも包括」に関する取組状況

(主な意見・論点)

(1)協議の場への当事者・家族の参画

- 市内のさまざまな協議の場で、当事者・家族が参画する機会が増えることが望ましい。
- ピアサポートは対象者支援で大きな役割を果たしており、積極的な協働と活動に応じた適切な評価や報酬の在り方を検討する必要がある。
- 今回のホームページのリニューアル案は、必要な情報へのアクセスがしやすいと思う。

(2)地域移行・地域定着への支援強化

- 病院の機能や対象者の特性により、必要な支援や課題が異なる。そのため、病院における地域移行に焦点をあてる必要がある。
- 地域移行を進める対象層を定め、戦略的に検討していく必要がある。
- 入院者訪問支援事業を開始したことは評価されるが、対象者にどう届けるかが課題。
- 地域定着に向けては関係機関の連携が重要である。
- 入院形態に関わらず支援が必要な方が、退院後も地域生活を継続できるよう、関係機関が連携してサポート体制を構築する必要がある。
- 具体的な解決策についての検討を進める必要がある。

協議 神戸市の「にも包括」推進にむけたビジョン

(主な意見)

(1)ビジョンに関する意見

- 当事者視点への配慮

当事者も「にも包括」の支援者となっている。一方で、ビジョンの表現では、「わたしたち」としながらも、ステップ1において「専門職」と「当事者」が分けられているような印象を与えていている。当事者も主体として位置づけられるよう、表現の見直しが必要。

(2)柱1、柱2に対してそれぞれの立場で取り組めること

柱1

- 精神障害や精神疾患について、身近なこととして捉えられるよう、啓発を進めることが重要。
- 入院患者への疾病教育、家族の理解促進の機会を設けることが必要。
- 企業等への啓発も重要であり、担当者が異動等で変わることも多く、継続的な取り組みが求められる。

柱2

- 地域移行・地域定着のためには、医療機関の理解が不可欠であり、連携が重要。
- 入院中の患者だけではなく、家族への訪問支援についても検討が望まれる。
- 地域生活を支える専門職は、疾患や障害の理解に加え、福祉サービスや制度への理解を深める必要がある。
- 当事者や家族会などの活動も重要だが、世代を超えてだれもが自分らしく過ごせる場が地域に多様な形で存在することが望ましい。
- 当事者や家族会などの活動も重要だが、世代を超えてだれもが自分らしく過ごせる場が地域に多様な形で存在することが望ましい。
- 医療現場においては、身体合併症への対応が課題となっている。
- 支援のシステム構築は重要だが、当事者のエンパワメントの視点も重要。
- 障害者見守り支援事業を行っている。災害時等における対象者支援が課題。
- 協議の場をはじめとした意見交換の場を継続して設けることが重要であり、当事者・家族を含めた意見交換が可能となることが望ましい。また、成功事例や取組効果を共有することで、支援者を含めた全体のエンパワメントにもつながる。